

## 濱田雅子の「服飾から見た生活文化」第 27 回 概要

### テーマ 1930 年代のアメリカ服飾史—アメリカン・ルックの誕生—

#### 全体構成

- I 参考文献
- II ヨーロッパの 1930 年代のデザイナー
  - 1. 歴史的背景
  - 2. 1930 年代の服飾
  - 3. 1930 年代のデザイナーの作品
- III アメリカン・ルックの誕生
  - 1. 認知されたアメリカ人デザイナーの特質
  - 2. 認知された代表的な 1930 年代アメリカのデザイナー
- IV クレア・マッカーデルの生涯と活動
  - 1. マッカーデルの経歴と作品
  - 2. ヴィオネとシャネルの影響
  - 3. シャネルとマッカーデルの比較
- V 第二次大戦下のアメリカン・ルック
- VI まとめ

#### I 参考文献

- Kohle Yohannan and Nancy Nolf, *Claire McCardell*, Harry N. Abrams. Inc., New York,
- 濱田雅子著『パリ・モードからアメリカン・ルックへ—アメリカ服飾社会史—近現代篇 (POD 出版)

#### II 1930 年代の服飾の特色

- 1930 年代ルック。その胸は強調されず、マークされたウェスト・ラインは自然な位置か、やや低め、スカートはバイヤス・カットで大腿部の下まで体にまといつき、そこか襠やフレヤーが入って垂直に落ち、全体としてソフトな流線型のラインを構成している。
- ロング・ドレスの再流行
- 体の量感を強調するデザインの再登場
- ドレープ・ドレスが人気を集めはじめる
- 1929 年の大恐慌のパリ・モード界への影響

Ⅲ アメリカン・ルックの誕生—「アメリカン・ルック」は、アメリカ人女性と典型的なロード・アンド・テイラーの顧客のライフスタイルを取り入れて具現化した、特定のファッションスタイルを描くために、ドロシー・シェーバーによって一般化された用語でした。シェーバーは、アメリカの女性のためにアメリカのデザイナーが特別に作ったスタイルがあると信じていました

#### 1. 認知されたアメリカ人デザイナーの特質

- S・F・レイプツツヒ (Sheryl Farnan Leipzig), J・L・パーソンズ (Jean L.Parsons ), および J・F・ベック (Jane Farrell-Beck) の論文は、1930年代におけるアメリカ人デザイナーの昇進をテーマとしている。パリ・モードから「アメリカン・ルック」への転換に関して、大変、論理的に考察された論文である。アメリカ人デザイナーの認知について、各デザイナーの特徴に言及しながら、子細に言及されている点は、特に注目すべきである。

Sheryl Farnan Leipzig, Jean L. Parsons & Jane Farrell-Beck, It is Profession that is New Unlimited, and Rich: Promotion of the American Designer in the 1930s, *Dress* vol.35, 2008~2009.

- 認知されたアメリカ人デザイナーの特質

単にアメリカ人デザイナーの認知と言っても、パリのデザイナーとの違い、アメリカ人デザイナーの特質を具体的に把握し、評価しなければ、真の意味でのアメリカ人デザイナーの認知とは言えないであろう。本論文では、以下の7つの特質を上げている。

- ① 「アメリカン」としてのデザイナー
- ② 「女性」としてのデザイナー
- ③ 「オリジナル」な才能をもつデザイナー
- ④ 「実用性」を重んじるデザイナー
- ⑤ 「管理」能力のあるデザイナー
- ⑥ 「裕福な」存在のデザイナー
- ⑦ 教育者・趣向のメーカーとしてのアメリカのファッションデザイナー

#### Ⅳ クレア・マッカーデルの生涯と活動

- クレア・マッカーデルは第1代目の真の意味でのアメリカ人デザイナーであり、「アメリカン・ルック」の創始者と呼ばれた。

- 年表

1905年 アメリカ合衆国のメリーランド州、フレデリックで誕生。

父：上院議員にも選出された銀行総裁

母：南部の軍人の娘。かなり裕福な育ち。

兄弟：クレアには3人の弟がいて、スポーツ好きな少年として成長。

1925年 芸術工芸学校、今のパーソンズ・デザイン学校 Parsons School of Design  
(当時は New York School of Fine and Applied Arts と呼ばれた) でファッションイラストを専攻。タウンリー社で働く

1927年 卒業後、7番街の会社で、パタンナー、モデル、デザイナーなどの仕事を転々とする。

1930年 彼女はスタートしたばかりの若手デザイナーのロバート・タークのアシスタントになる。彼のベンチャーが失敗したので、その後、彼とクレアはタウンリー社(確立したスポーツウェアのアトリエ)に移る。

1932年 タークが航行事故で死亡。クレアは正式なデザイナーへと昇格。会社が崩壊するまで、彼女は7年間、タウンリー社に留まった。

1938年 タウンリー社で仕事をしている間、彼女は最初の商業上の成功をおさめる。

「修道院のドレス」(着用者がサッシカベルトで彼女自身のウエストラインをかたどった流麗なローブのようなデザイン)

1939年 タウンリー社が会社を畳む。

彼女はハティ・カーネギーで短期間、働く。カーネギーのメゾンはパリジャンのデザインを販売したが、マッカーデルのデザインは、カーネギーの好みには、あまりにもシンプル過ぎた。

1940年 タウンリー社が再オープン。

クレア・マッカーデルは、最初のコレクションを持参。このコレクションは、当時としては急進的な自然なショルダーが特徴的で、袖付きのワンピースに裁断されていた。

プリーツかバイアス・カットの採用。

1940年代 ビーチウェアと遊び着をデザイン。

クレア・マッカーデルは古典的なギリシアとローマの巻き衣とスタイリングに非常に関心があった。彼女は多くのカジュアルな衣服を作ったが、彼女のいくつかのガウンは真に古典的なデザインである。

1942年 「ポップ・オーバー」ドレス(巻きつけて着るホームウェア)をデザイン

1952年 マッカーデルはタウンリー社の共同経営者兼副社長になる。

1953年に、クレアはテキサス出身の建築家アービング・ドゥロー・ハリスと結婚した。彼らはニュージャージー州のフレンチタウンの農家で自分達の時間を享有した。

1955年 綿のリゾート用の衣服を作るのにシャガール、レジェール、ピカソ、ミロ、およびデュフィのような現代の芸術家のデザインを使用した。彼女はヨ

ヨーロッパの芸術家のスタジオに彼らを連れて行った。

クレア・マッカーデルは 53 歳のときに癌で他界して、ファッション界は一人の偉大なデザイナーを失った。

#### V まとめ—クレア・マッカーデルに対する評価

- 初期のシェーバーのプロテゼであったクレア・マッカーデル (Claire McCardell) は、典型的なアメリカのデザイナーとして知られるようになりました。Lord&Taylor との会合に先立って、彼女は長年にわたってデザインしてきましたが、適度な成功を収めました。彼女はパリのオートクチュールのスタイルを拒否し、自分の道を歩いていたので、大量の魅力を見つけることができませんでした。しかし、1945 年、Lord&Taylor のスポンサーシップを受け、彼女はデザインに対する支持、露出、賞賛、認知を得ました。
- シェーバーが宣伝していたシンプルで機能的でスタイリッシュなアメリカン・ルックに完全に合っています。彼女のデザインは、テントドレス、ラップアラウンドスカート、ハーレムパジャマ、流行の水着、デニムの使用、擬似毛皮など、今や共通すると考えられる多くのファッションのための道を開きました。ライフは、1990 年に彼女のデザインに影響を与えるために、20 世紀の最も重要な 100 人のアメリカ人の一人と名付けました。彼女は彼女の名前をライセンスする最初のアメリカのデザイナーの一人であり、Time のカバーの初めての女性デザイナーでした。